



カスタマーエクスペリエンスプラットフォーム

HeartCore

V11

最高のデジタル体験をすべての人に

デジタルマーケティングに必要なすべてが揃った

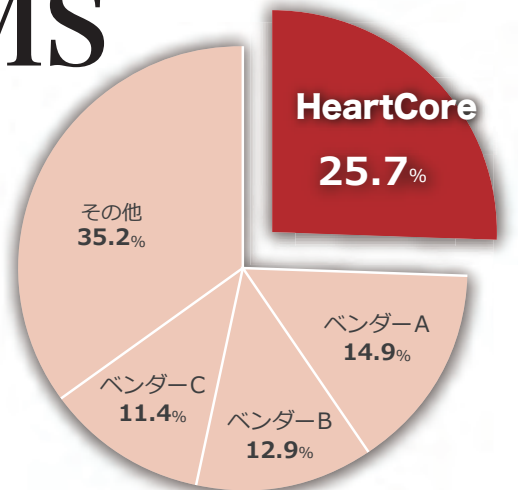
オールインワンCXM Cloud プラットフォーム

HeartCore

国内シェア **No.1**[※] CMS

様々な業界の企業が選ぶ HeartCore

HeartCoreの導入企業は550社を突破
(2019年5月現在)



▲CMS パッケージ市場 ベンダー別売上金額シェア(%)

※出典 富士キメラ総研：『ソフトウェアビジネス新市場2019年版』アプリケーション/CMSパッケージ 2018年度国内実績・売上（金額ベース）

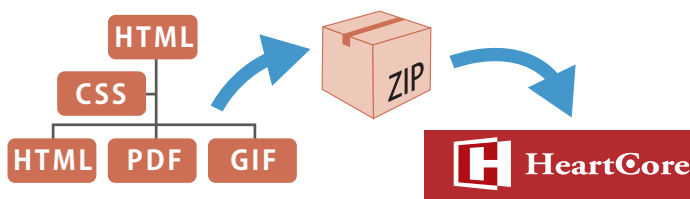
常に最新のテクノロジーを採用した先進的な機能を搭載。「進化し続けるCMS」との評価を得つつ、CMS市場を牽引してまいりました。

HeartCoreが選ばれる理由

- 1 効率的なコンテンツ管理**
マルチチャネル、マルチドメイン、マルチランゲージのコンテンツ管理を実現し、煩雑だった更新業務を一新します。
- 2 直感的かつシンプルなUI**
高性能なWYSIWIGエディタや、テンプレート管理機能を通じてコンテンツ作成作業時間を圧縮できます。
- 3 充実したサイト内検索**
サイト内検索機能を搭載する唯一のCMSです。日本語に特化した検索エンジンであるため、高度な検索体験を構築することができます。
- 4 既存サイトの一括移行**
既存サイトを一括で取り込むための機能をご用意しているため、比較的安価かつ迅速に移行を完成させる事ができます。

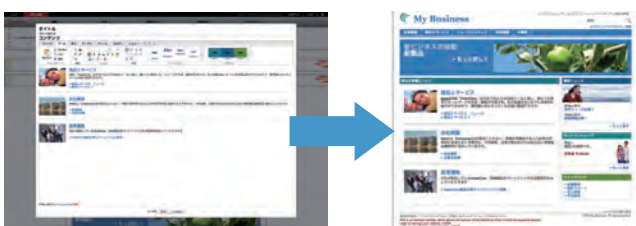
Webサイトの開発、および運用管理の効率が飛躍的に向上

◆サイトリニューアルをスピーディに



既存HTMLファイルを一括移行できます。

◆コンテンツ作成・編集は MS Office感覚で



コンテンツ編集は、ページを複数に分割したブロック単位で行うことが可能です。

一部機能ご紹介

◆マルチデバイス対応

スマートフォン、タブレット、PC等、各デバイスに応じたページを自動的に生成

◆複数ドメインサイト管理

1台のサーバ(1ライセンス)で、複数のドメインサイトの運用が可能

◆コンテンツ逆引き機能

画像ファイル等がどのページで利用されているかを可視化。不要ファイル削除が簡単に

◆アクセシビリティチェック機能

Webページのアクセシビリティチェックを行い、色弱や視力が弱い方への対応も万全

生産性を大幅に高めるHeartCoreの独自関数

◆情報を自由にデザイン

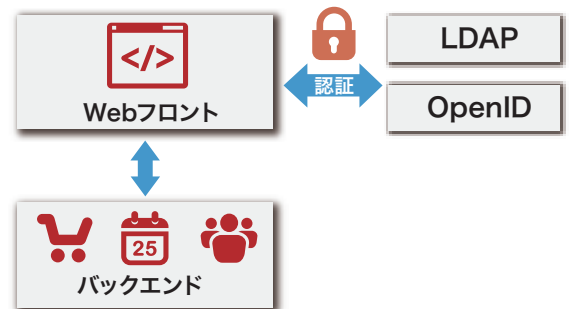
HeartCoreでは、@（アットマーク）関数と呼ばれる独自関数を用意しています。この関数を使用することで、CGIやJava等でプログラミングを行う必要がなくなり、呼び出したい情報を呼び出したい条件で、どこにでも簡単に挿入・表示する、条件により情報を出し分ける等が可能となります。通常のプログラミングと異なり、複雑な知識やコーディングの時間を必要としないため、ノンプログラミングでどなたでも使用いただける機能です。



多種多様なシステムとの連携

◆繋がる繋がる

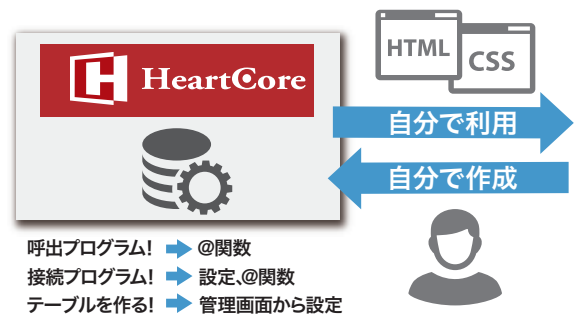
HeartCoreは多種多様なシステムと連携し、フロント・システムとして多数稼働しています。代表的な利用方法としてマイページサイト、イントラネットではLDAP、OpenIDと連携する認証や、ECサイトではECシステムと連携し、コンテンツや画面をHeartCoreが管理し、バックエンドのECシステムのビジネスロジックと連携する方式などがあります。



自由に作って、自由に使えるデータベース

◆特別な知識は不要、ノンプログラミング

通常のWebシステムでは、データベースは別に構成する必要があります。まして、運用の中で自由に自分で作成でき、利用できるという製品は世界中のCMSでもあまり見かけません。HeartCoreでは、管理画面上から利用したい項目を任意で設定し、データベースの作成が可能です。また、作成したデータベースの更新や参照などを、HTML上に関数形式で配置することができますので、特別な知識がなくても、データベースを使ったコンテンツを提供できます。



顧客満足度を高めるパワフルな検索エンジンを搭載！

◆サイト訪問者が求める情報をすばやく的確に表示

HeartCore標準搭載の検索エンジンは、ソーラス辞書や類義語辞書をオプションで搭載することが可能で、位置考慮検索や近傍検索、論理式検索も行える、日本語においては最強の検索エンジンです。

「類似検索（自然文検索、あいまい検索）」に加え、過去に検索されたキーワードに続く文字列、絞り込みキーワードを候補キーワードとして自動補完表示する「サジェスト機能」や、「重み付け機能」、「アクセスランキング機能」、「レーティング機能」などを活用して、訪問者の顧客満足度の向上を図ることができます。

入力	参照	出力
【例】 検索質問： 「デジタルカメラの 画像をプリンターで 印刷する方法は？」	検索質問と 各ドキュメントとの スコア(0~100%) を計算	スコア 検索結果 89% デジタルカメラ画像をプリンターで印刷するには… 76% デジカメ画像をプリンターで印刷する場合は… 67% デジタルカメラの写真をプリンターで出力する方法について… 50% プリンターで写真を印刷するには… 40% デジタルカメラの使用方法について教えます…
キーワードやフレーズでも類似検索が可能		キーワード全文検索を圧倒する回答力を実現

▼出力可能レポート例

どんなキーワードがよく検索されている？	検索キーワードランキングレポート
どの検索対象がよく利用されている？	利用頻度・負荷状況レポート
ヒット件数の少ないキーワードをレポート	コンテンツホール・レポート
指定したキーワードの周期毎アクセスをレポート	キーワード推移レポート
指定したキーワードに対しての検索状況をレポート	特定キーワードレポート

コンテンツマネジメントの在り方の

市場環境

5G通信

2020年より提供が見込まれている次世代の無線アクセス規格

- ・超高速
- ・超大容量
- ・超大量接続
- ・超低遅延



顧客接点の 多様化

- ・IoTデバイス
- ・PWA
- ・シングルページアプリケーション



Generation Z

- ・自由時間はオンラインで過ごす
- ・判断が早く、一瞬で自分に必要かどうか見極める。1秒以上待たない
- ・交流が大事。シェアしたがる
- ・ソーシャルメディアやレビューを重視する



データ マネジメント

- ・Cookieの衰退
- ・データプライバシーファースト
- ・データオーナーシップ



◆キーワード

リアルタイム

2020年以降、購買力が高まってくるGeneration Z世代は、幼少期からデジタルに触れ、大量の情報に接触することが当たり前の環境で育ってきているため、非接触チャネルを通じて情報に触れる時、自分にとって有益な情報か否かを判定する能力に長けています。

また、2020年には5G通信が本格的に普及しはじめ、場所を選ばず大容量・超高速の通信を利用することができるようになるため、顧客はWebサイトやスマホアプリを利用する際の「スピード」に対して、より敏感になると言われています。

これらの市場背景から、2020年以降、顧客に対して「最適な情報」を「瞬時」に「個別」に提示することが企業に求められるようになってきます。

5G



Generation Z

コンテンツ一元管理

IoTの発展や、様々なスマートデバイスの普及の加速はとどまるところを知らず、顧客との接点は日々増え続けています。その中で、マーケティング担当者の重要な課題の一つに、そういった大量のデバイスに対し等しく新鮮な情報を届け続けるというタスクへの対応が新たに加わりつつありますが、数十数百とあるデバイスに対し、個別のコンテンツを用意することは現実的ではありません。今後、コンテンツの管理基盤には、あらゆるデバイスに対し一つのコンテンツを再利用することができる運用性が必要となります。



データオーケストレーション

iOSで搭載されたITPを始めとするCookieの規制により、データを利用したマーケティングテクノロジーの活用は大きな壁に阻まれ始めています。特に、顧客の属性を利用したターゲティングは、3rd Party Cookieの衰退と共に、良好なROIを得ることが難しくなりつつあります。今後、CX周辺のソリューションを充実させていくには、Customer Data Platform (CDP) といったデータ基盤をベースにマーケティング環境を構築し、企業自らデータを収集・分析することができ、かつ環境の変化に左右されない強固なデータドリブンマーケティングを実現していくことが大きなポイントとなってきます。



変容

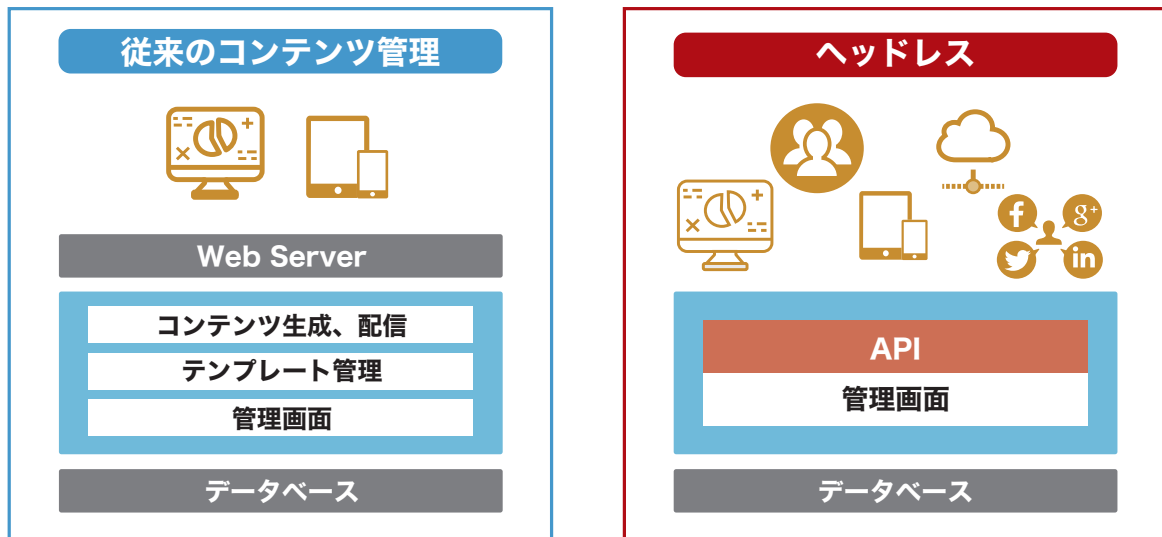
CMSの新しいトレンド

◆ヘッドレスCMSとは

従来のCMSは、コンテンツの作成/管理/編集といったバックエンド機能と、html等のレンダリング/配信といったフロントエンド機能が密接に結合したプラットフォームでした。

ヘッドレスCMSはバックエンド機能だけを有しており、コンテンツの公開は全てAPIを通じて行われます。そのため、各チャネル側にてAPIで取得したコンテンツを描画するプログラムを構築する必要がありますが、その代わりにすべてのチャネルに対して同一のコンテンツを平等に配信することができるようになります。

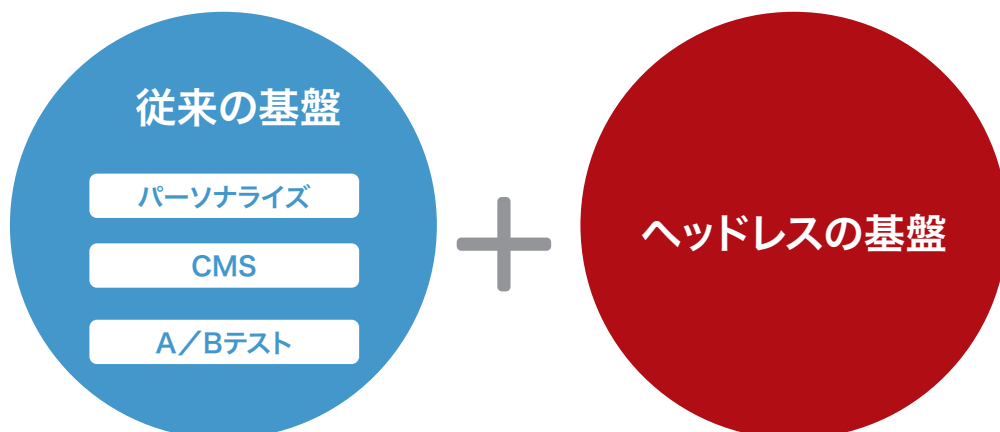
日々増加する新たなチャネルに対して適切かつ迅速にコンテンツを配信するためのシステムが、ヘッドレスCMSです。



◆ハイブリッドCMSの必要性

ヘッドレスCMSを利用することで、コンテンツの一元管理を実現することは可能になりますが、Webサイトへのコンテンツ公開もAPI経由のみとなってしまう、Javascriptなどを利用しコンテンツを別途描画するコーディングが必要となることがあります。この場合、該当するスキルを持つ技術者がいないチームではWebサイトの管理が難しくなってしまいます。

昨今、こういった問題が発生しないよう従来のCMSとヘッドレスCMSが共存するハイブリッドCMSがトレンドとなりつつあります。



HeartCore CXM Cloud

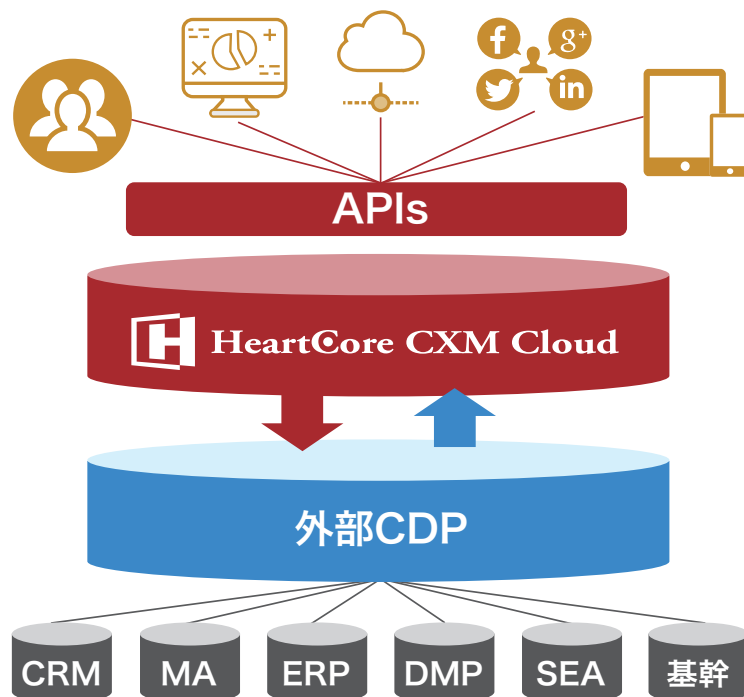
HeartCore CXM Cloudとは

◆ヘッドレスCMSを中核とするデジタルエクスペリエンスプラットフォーム

HeartCore CXM Cloudは、ヘッドレスCMS※¹を中核エンジンとしたデジタルエクスペリエンスプラットフォームで、Webサイトだけではなく、デジタルサイネージやスマートフォンアプリケーション、各種IoTデバイス等に対してパーソナライズされたコンテンツ配信することを実現します。

また、HeartCore CMSの主な機能である高度なコンテンツ編集機能を応用し開発がなされているため、柔軟なコンテンツの表現が可能です。

※1 ヘッドレス：HTMLで構成されたグラフィカルな表示を持たないこと。

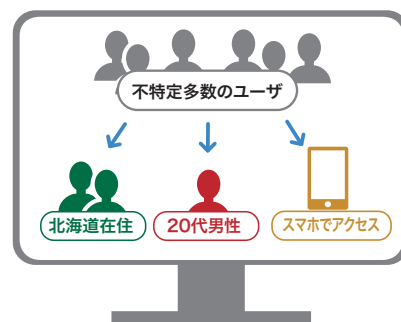


◆外部CDP連携

HeartCore CXM Cloudは、外部のCDPと連携し、パーソナライゼーションを提供することができます。

どんなページを閲覧したのか、オフラインではこういった行動をとっていたのか等、CDPの構築方法によっては非常に高度なプロファイルを利用しパーソナライズが可能です。

既にCDPを構築済みであっても、そのCDPと直接接続が可能です。



◆パーソナライゼーション

顧客に合わせた最適なコンテンツをリアルタイムに表示します。

設定したユーザーセグメントと重み付けに応じて、パーソナライズされたコンテンツがリアルタイムに自動で表示可能です。

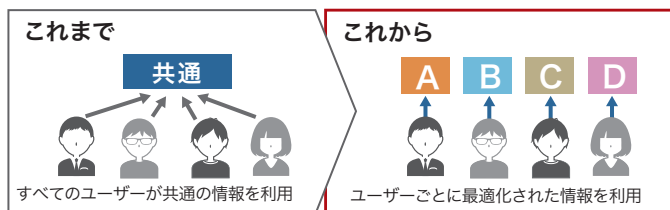
例えば20代女性ユーザーには図や写真で訴求、30代男性ユーザーにはグラフや数字で訴求、カート内に未購入商品が残っているユーザーには割引情報を表示します。



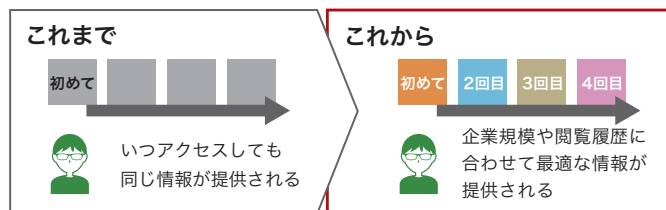
Webサイト上の行動が合わせたオファの作成

◆ユーザー情報で最適化

特定したユーザーに対して、
ユーザーの属性から最適な情報を提供

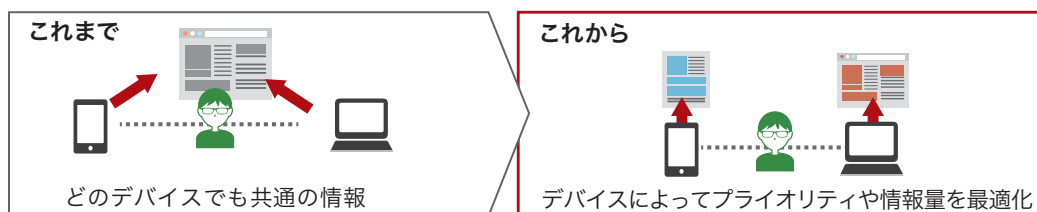


特定したユーザーに対して、
ユーザーの行動履歴から最適な情報を提供

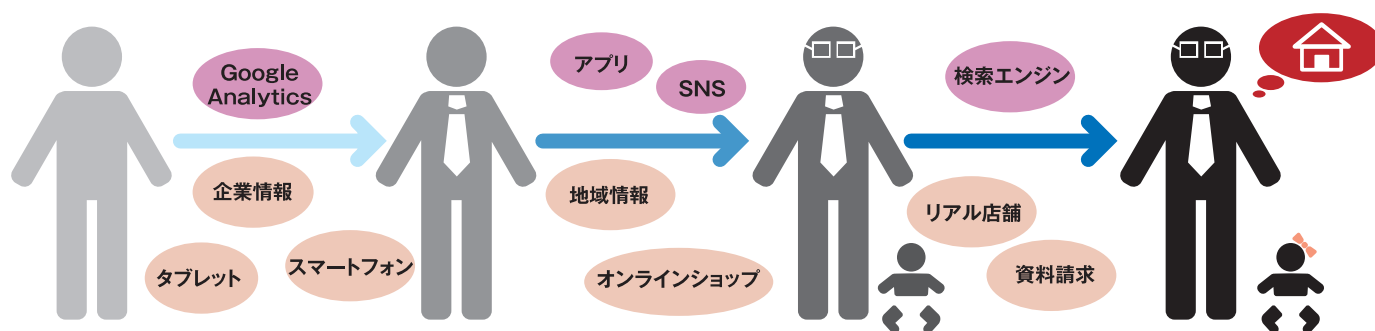


◆デバイスで最適化

アクセスするデバイスに対して情報をセレクトして提供することが必要



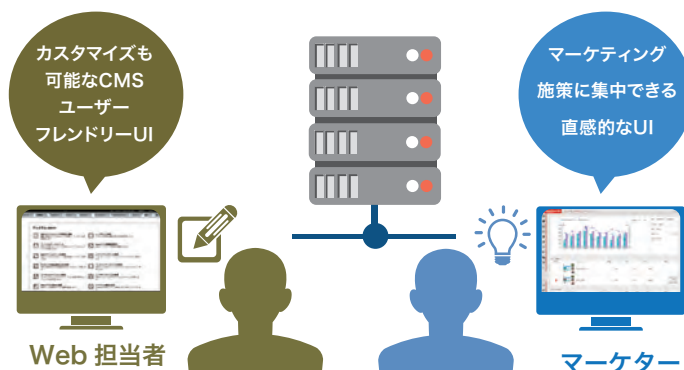
ポイントは相手が「誰」かを知ること



◆直感的なUI

HeartCore CXM Cloud は直感的なUIを搭載しているため、マーケティング担当者の方でもラクラク設定が可能。

専門的な知識やWeb接客ツールを利用したことがなくても、すぐにコンテンツのパーソナライズやポップアップを作成できます。



HeartCore CXM Cloud

Webサイトで「おもてなし」の実現と自動化

◆Webはカタログ？

Webサイトは今までカタログと同じで、誰が見ても同じ情報が出てきました。
今では、一人一に最適化されたコンテンツが出てくる必要があります。



◆今後Webサイトに必要な物とは

今後のWebサイトに必要なものは、「おもてなしと自動化」です。
大切なのは、Webに来た人が誰かを知ることです。

おもてなし



自動化

HeartCore CXM Cloudの実現するデジタルマーケティング

◆キーワードは「予測」と「先回り」

世の中のあらゆるデジタルデータを蓄積し、ニーズに応じた豊富なアクションを実現

あらゆるデータを基にユーザを解析し、最適なコンテンツを提供するWebが必要不可欠です。



令和時代のパーソナライズの考え方

顧客の購買行動は日々複雑化しており、パーソナライズを正確に提供するためには、オペレーション、データ活用、顧客接点という3つの要素にフォーカスすることが重要となってきます。日々のオペレーションがいかにスムーズか、データは正確に収集・分析されているか、最適化すべき顧客接点は柔軟に更新できるよう構築できているか、このバランスによってパーソナライズの成否は決まってきます。
HeartCore CXM Cloudは、この3点を設計の中核とし開発された製品です。



HeartCore CXM オンプレミス

◆セグメンテーション

多様な切り口でのセグメンテーション

◆パーソナライゼーション

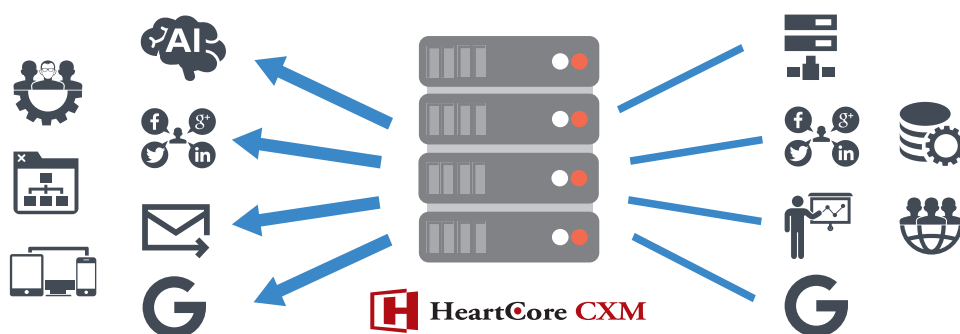
セグメントに基づいた多様なパーソナライゼーション

◆A/Bテスト

最適な解を探すためのA/Bテスト

◆ヒートマップ

ユーザの行動を可視化するヒートマップ

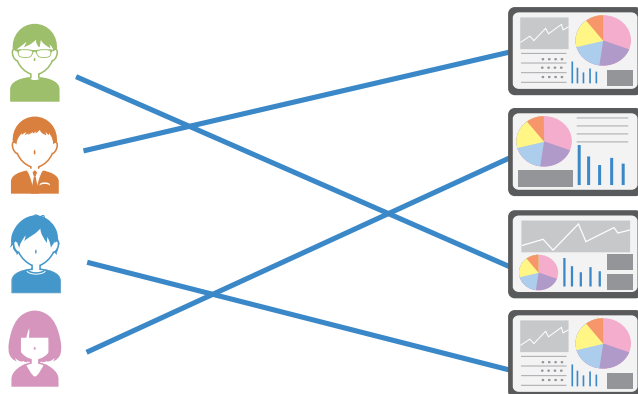


HeartCore AI オンプレミス

◆A/Bテスト自動化

多数のテストセグメントをAIが自動的に生成し、テストクリエイティブをランダムに表示することで、セグメント毎に最適なクリエイティブを判定、全体のコンバージョンを最適化します。

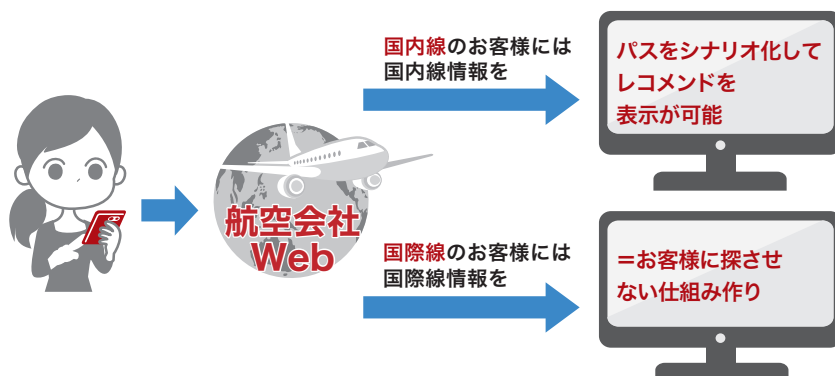
人力では実施困難な、多数のセグメントと複数のクリエイティブのベストマッチングをAIが支援します。



◆シナリオレコメンデーション

サイト訪問者の目的やニーズに応じて、適切なページへと誘導する「パス（導線）シナリオ」をAIが自動実行することで訪問者が喜ぶ、優れた顧客体験の提供が可能です。

例えば、航空会社の予約サイトの訪問者の閲覧行動から、訪問者の求める情報を推定し、適切なページに導くメッセージを表示するといったことが行えます。



幅広い業種・業態の多様なニーズに対応

HeartCoreは、
様々なタイプのサイトで
採用されています。

コーポレート
サイト

ブランド
サイト

EC
サイト

イントラ
ネット

コミュニティ
サイト

導入企業様(一部)



Webサイト要件に応じて様々な機能をご提供

HeartCore CMS

Webサイトの記述言語であるHTMLやCSSを知らなくても、ホームページを構築して運用管理できる、コンテンツ管理システムです。Webサイト運用に必須な運用管理機能はもとより、サイト内検索機能、自由設計のデータベース、動的パーツ群の@関数機能等を兼ね備えた至高のCMSで、サイト運用のさらなる向上に貢献いたします。

HeartCore CXM Cloud

Webサイトをはじめとした各種デジタルチャネルのパーソナライズを実現するプラットフォームです。独自のAPIを経由してコンテンツをヘッドレスに配信する機能を備え、さらに外部CDPと連携することで統合されたプロファイルを利用し、パーソナライズされたエクスペリエンスを実現します。(オンプレミスもご提供可能です)

さらなる拡張に応じて多彩なオプションをご提供

HeartCore Escort

分かりやすさ&使いやすさにこだわったポップアップ型Web接客ツールです。Webサイト上でポップアップ式のメッセージを表示し、CVRの向上に貢献いたします。

PIWIK PRO GDPRコンセンスマネージャー

Webサイト来訪者に対するCookie利用の同意管理を柔軟に行うSaaS型のWebサービスソリューションです。GDPRを前提としたコンプライアンスに準ずる適切なデータマネジメントを行い、企業のWebサイトでの顧客体験を担保し、リスクマネジメントと企業価値の向上を実現します。

HeartCore

お問い合わせは

ハートコア株式会社

東京都品川区東五反田1丁目2番33号白雉ビル3階 TEL:03-6409-6409-6966 FAX:03-6675-7078

URL: <https://www.heartcore.co.jp> お問い合わせ: sales@heartcore.co.jp

*記載されている会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

*本製品の仕様およびパッケージの内容は、改良のため予告なく変更される場合があります。

取扱代理店